

2006/10/28

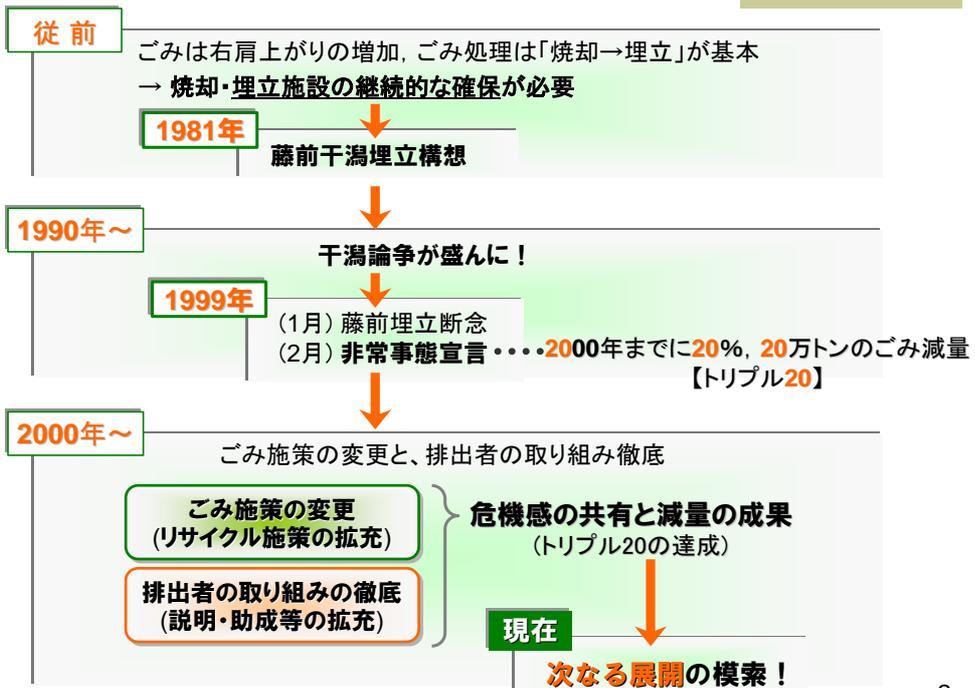
市民会議 (配布資料)

なごやにおけるごみ問題の経緯 及びごみ減量化対策の現状

なごや循環型社会・しみん提案会議
実行委員会

1

1. なごやにおける「ごみ問題の経緯」

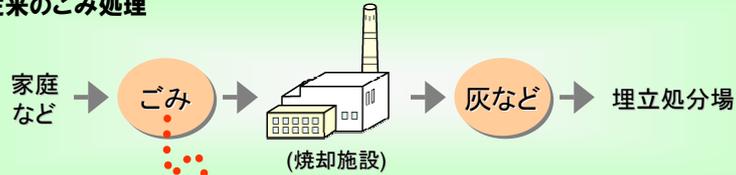


2

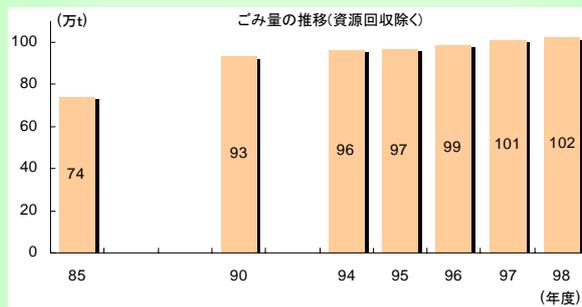
2. なごやでは、何故ごみを減らす必要があったか？

2.1 増え続けるごみ

その1●従来のごみ処理



その2●増え続けるごみ



！ 右肩上がりのごみの増加は、焼却・埋立施設の継続的な確保が求められます。

藤前干潟埋立構想もこのような背景からつくられました。

3

2. なごやでは、何故ごみを減らす必要があったか？

2.2 干潟論争と非常事態宣言

その1●干潟論争

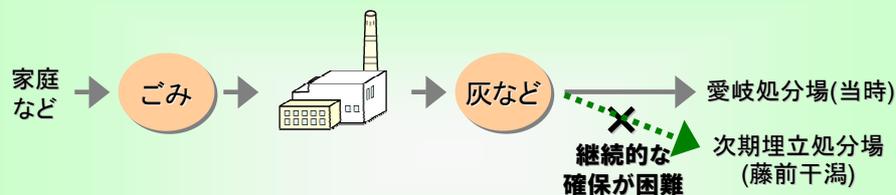
1990年代に入り、藤前干潟の埋立については、激しい論争が起きました。

市民運動サイド

VS

名古屋市サイド

その2●藤前埋立断念と非常事態宣言



非常事態宣言

2000年までに20%、20万トンのごみ減量を目指に！

4

3. なごやでは、どのようにごみを減らしたか？

3.1 ごみ施策の変更と排出者への支援

●名古屋が行ったごみの減量の取り組み

ごみの減量には、大きく

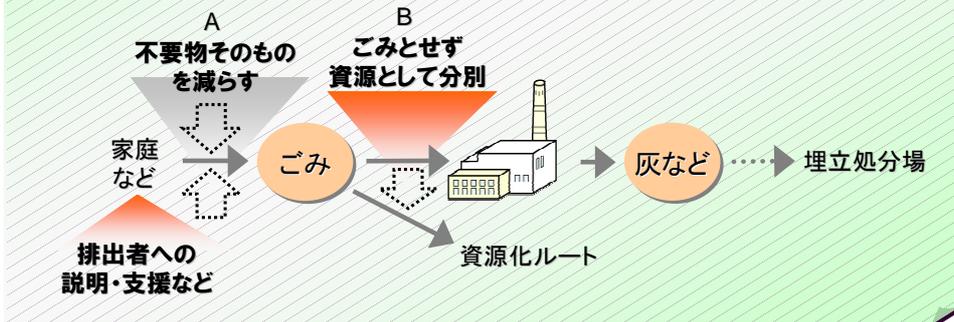
A: 家庭や事業所から出る**不要物そのものの減量**

B: 不要となったものでも**“ごみ”とせず、資源として分別**

の2通りがあります。

非常事態宣言後、なごやでは、特にBの取り組みを中心に拡充させてきました。

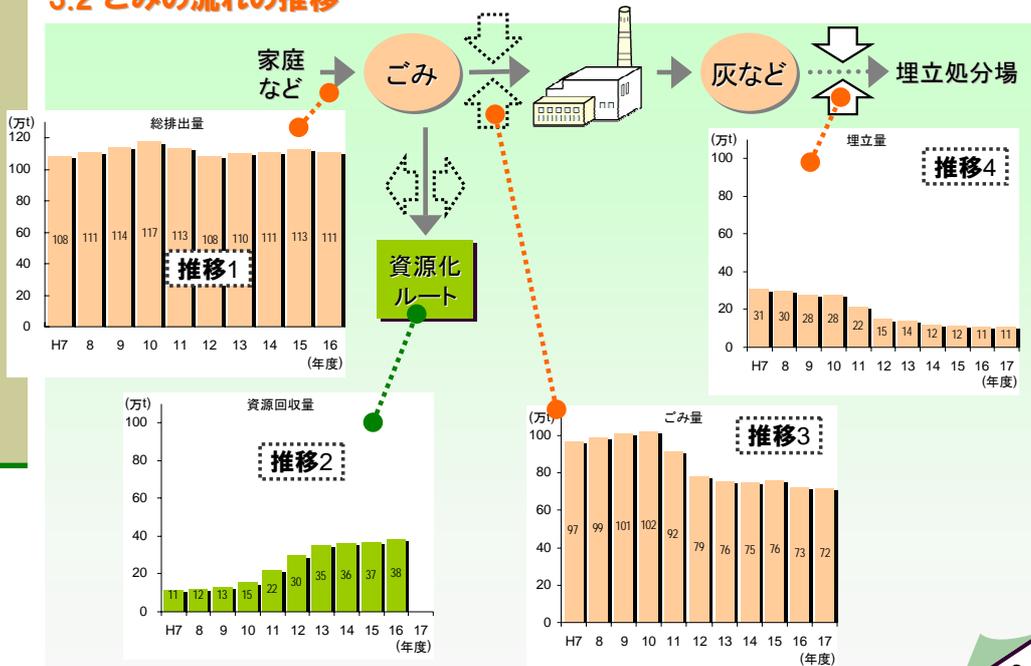
(第2次一般廃棄物処理基本計画)



5

3. なごやでは、どのようにごみを減らしたか？

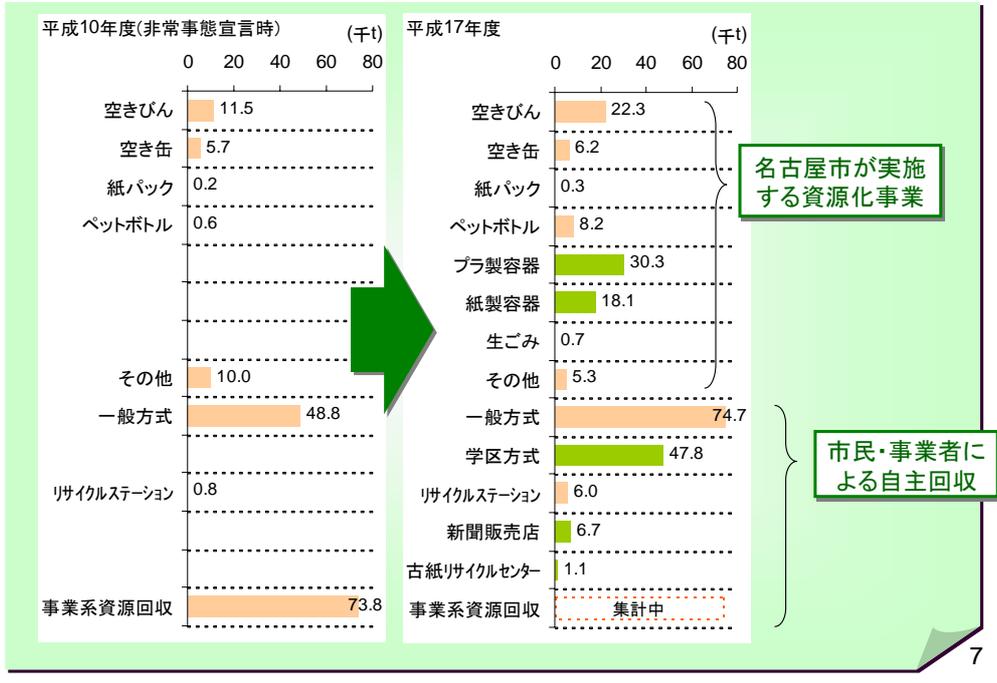
3.2 ごみの流れの推移



6

3. なごやでは、どのようにごみを減らしたか？

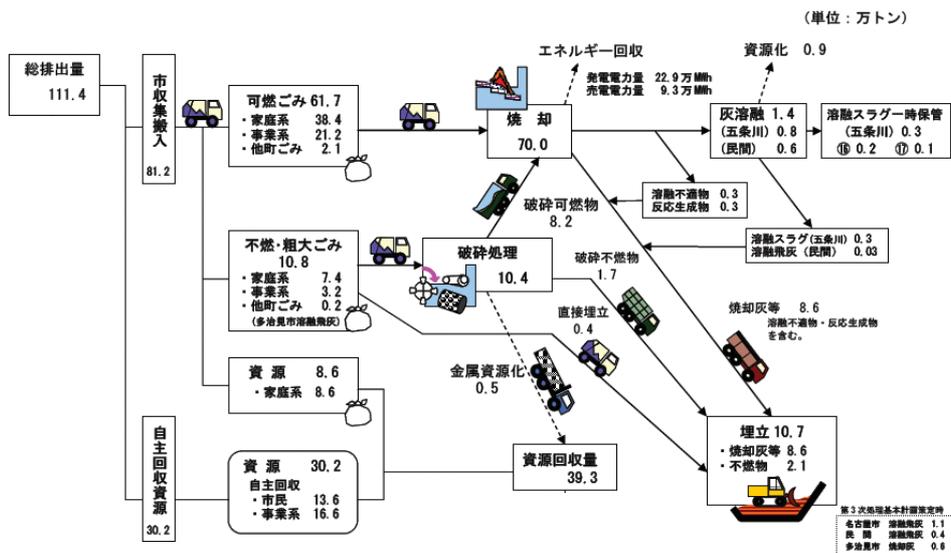
3.4 資源化量の内訳



4. なごやにおける“ごみの現状”

4.1 ごみの流れ

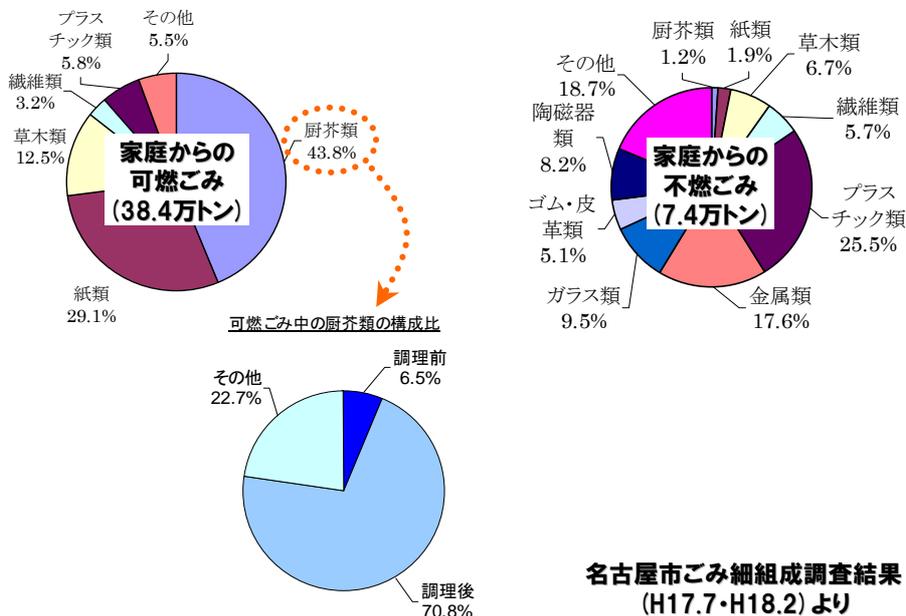
ごみ処理の仕組み（平成17年度）



※3次処理基本計画策定時
 名古屋市 溶融灰 1.1
 民間 溶融灰 0.4
 多治見市 焼却灰 0.6

4. なごやにおける“ごみの現状”

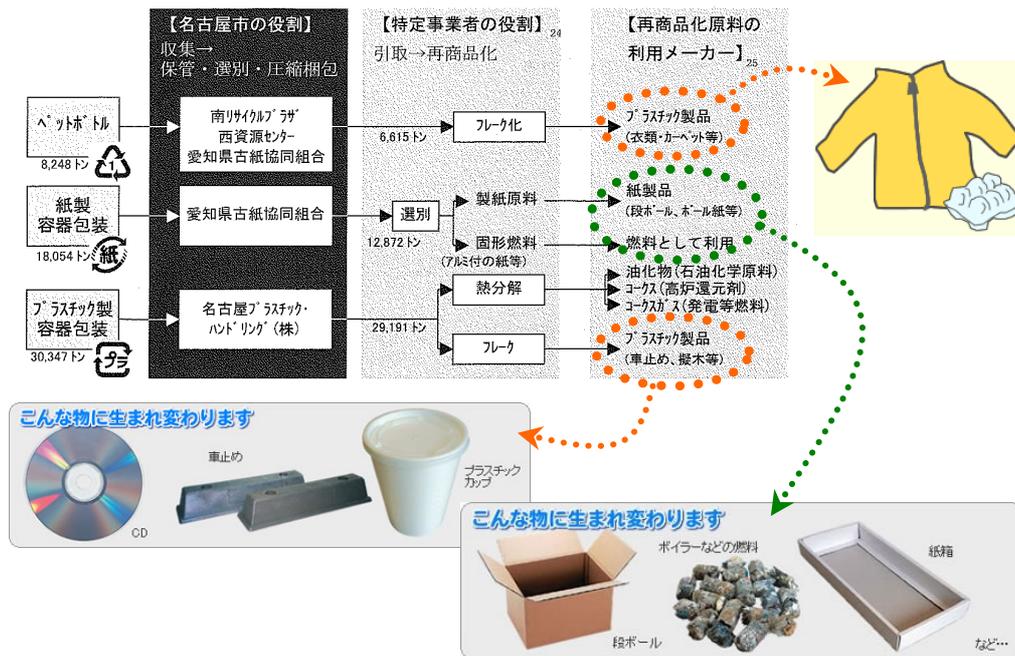
4.2 ごみの中身 (家庭ごみ)



9

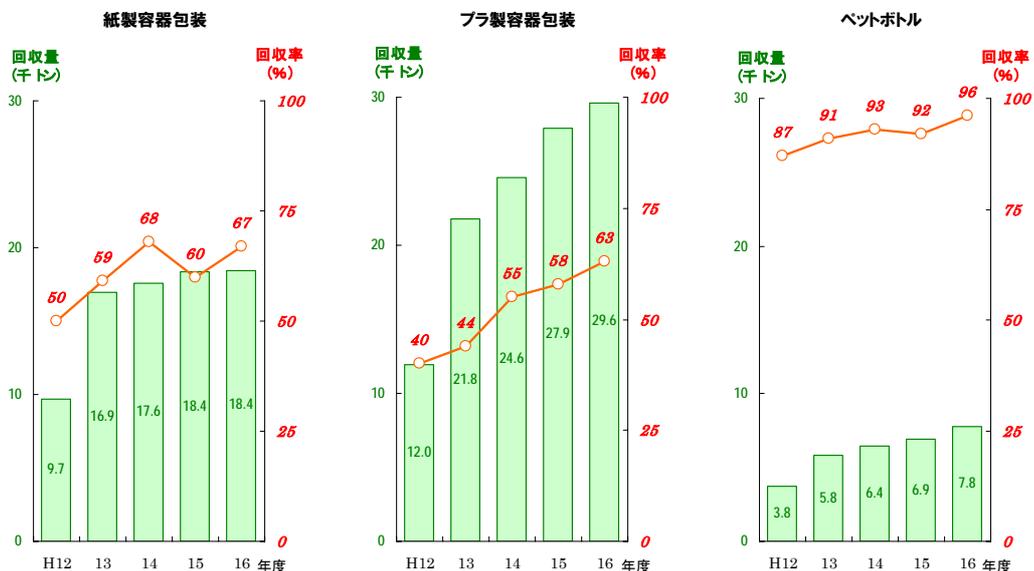
4. なごやにおける“ごみの現状”

4.3 紙・プラ製容器包装、ペットボトルの流れと回収量 (名古屋市収集分)



4. なごやにおける“ごみの現状”

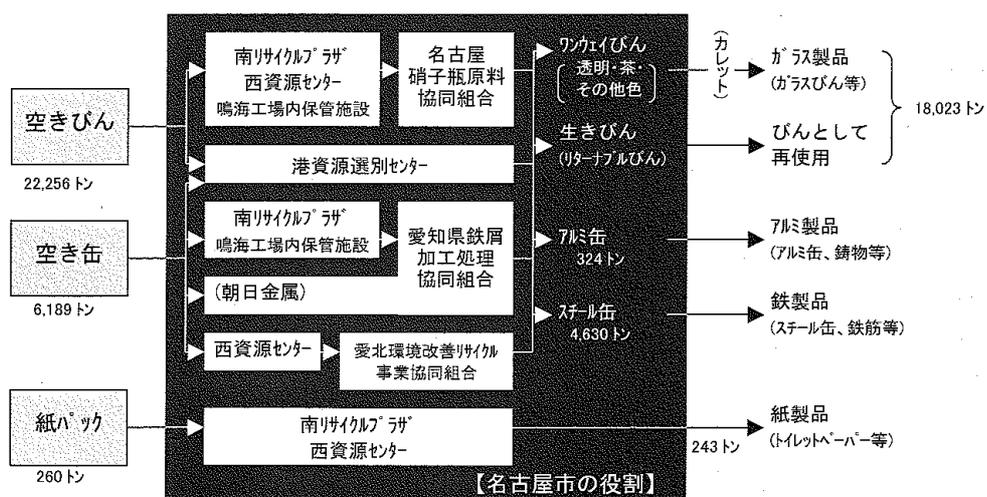
4.3 紙・プラ製容器包装、ペットボトルの流れと回収量（名古屋市収集分）



11

4. なごやにおける“ごみの現状”

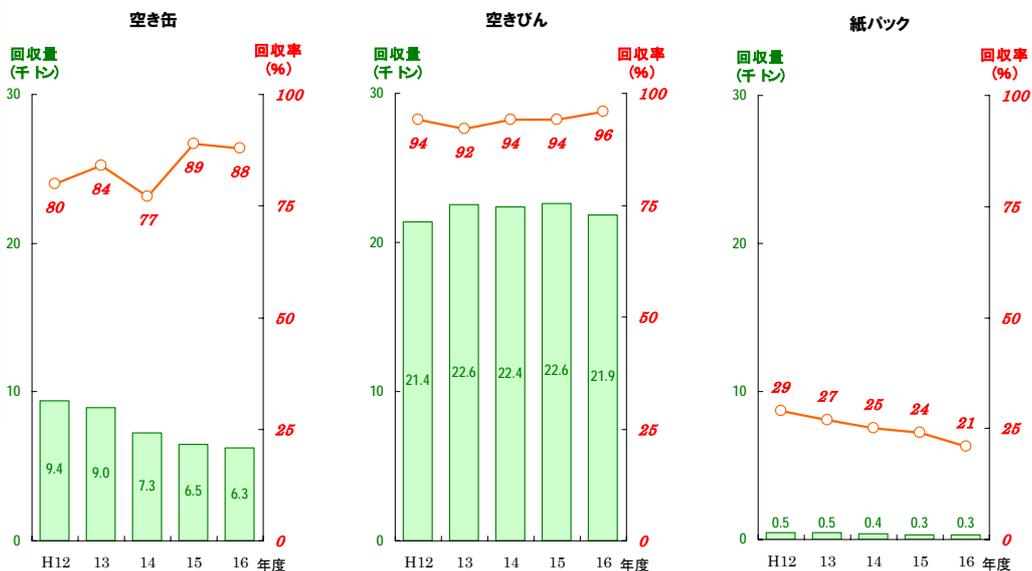
4.4 びん、缶、紙パックの流れと回収量（名古屋市収集分）



12

4. なごやにおける“ごみの現状”

4.4 びん、缶、紙パックの流れと回収量（名古屋市収集分）

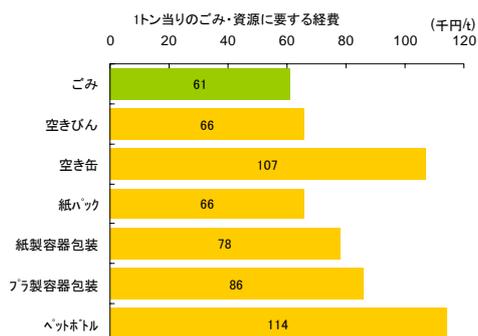


13

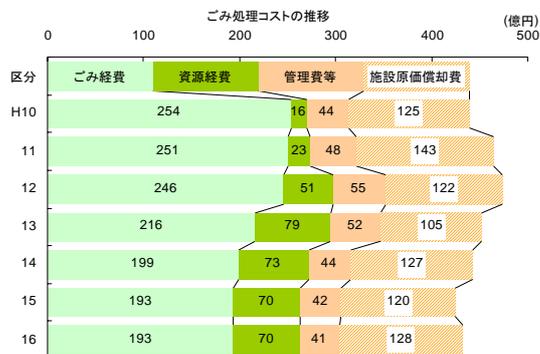
4. なごやにおける“ごみの現状”

4.5 ごみ処理経費の推移

●ごみ・資源の経費



●ごみ処理コストの推移



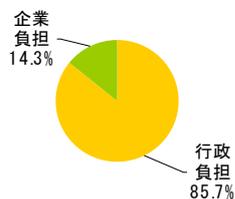
14

4. なごやにおける“ごみの現状”

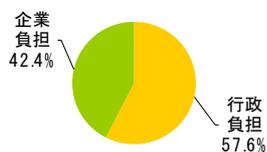
4.6 リサイクル費用の事業者負担分 (平成16年度)



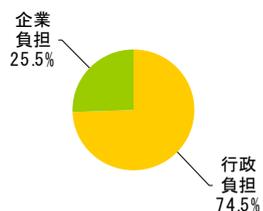
紙製容器包装の費用負担割合



プラ製容器包装の費用負担割合



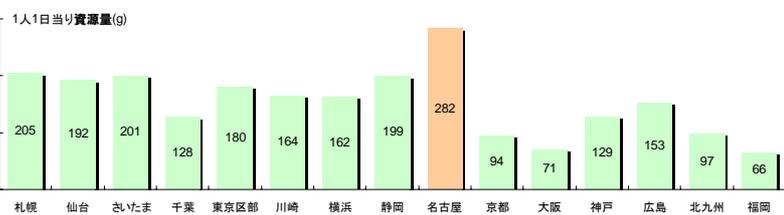
ペットボトルの費用負担割合



15

4. なごやにおける“ごみの現状”

4.7 他都市との比較 (平成16年度)



16